

地に戻っており、足取りがつかめなかつた。

それから約半月後の8月16日、2時ごろ。城山村（現在の清水地域）二川地区の農家の家に山本が押し入った。「金を出せ!」「金はない!」と押し問答になったが、家族が騒いだためか、山本は焦って家屋に銃弾を2発撃ち込んだ。

この知らせは、間もなくして二川地区に駐在していた小西榮次郎巡査のもとへ届けられた。

二川での事件から約1時間30分後、八幡村（現在の清水地域）遠井地区の宿屋に山本が押し入った。山本は左手でピストルを握り、右手に懐中電灯を持っていた。宿屋の主人は逃げたが、2階に呉服行商人が宿泊していた。商人が1階の物音に気付き階段を駆け下りたと同時に、山本が商人目掛けてピストルで撃った。商人は山本に体当たりして組み打ちになったが、山本が懐からもう1丁のピス

トルを取り出した。2丁のピストルにはかなわないと思つた商人は、2階へ駆け上がった。その間に山本は、商人が宿に預けていた商品などを奪って逃走した。

16日の朝、小西巡査は、自転車で八幡村の派出所に向かつていた。二川地区での農家強盗未遂事件を報告するためだった。偶然、路上で派出所の警察官と出会い、事件の内容を報告したところ、遠井地区でも強盗事件があったことを聞かされた。小西巡査は、早速付近一帯の捜索に取り掛かる。

その日の20時ごろ、小西巡査は、八幡村楠本地区の茶屋で犯人らしい男が酒を飲んでいるのを見つけた。小西巡査は男が山本であることを確認すると、山本の手をとって表に連れ出した。

少し歩いたところで、山本は突然小西巡査に体当たりし、逃走しようとした。小西巡査はとっさに

山本に組み付き、もみ合ううちに道路わきのくぼみに転落した。山本はピストルを取り出し、構えたが、小西巡査にピストルを奪い取られそうになったので、巡査の手にかみ付いた。

そのとき、銃声がした。小西巡査の手が山本から離れた途端、山本は巡査に銃口を向け、銃弾を浴びせた。一発は胸に、一発は腹に。小西巡査は即死した。

17日早朝、小西巡査殉職の悲報と、山本が現れたという報告が警察部に届いた。

山本は逃走し、那賀郡小川村（現在の海南市）に現れて飲食店に押し込んだ後、生石山（生石高原）に逃げ込んでいた。

多数の警察官を動員し、付近の村々から住民らが応援に駆けつけ、計1,500人が包囲・捜索。逮捕に至ったのは18日早朝のことだった。

（引用・参考／和歌山県警察史・清水町誌）



小西巡査が事件時、身に着けていた衣服。ピストルの弾跡が当時のまま残されている。

（和歌山県警察 資料室）